

製本のススメ

Vol. 177

世界中 新型コロナウイルスの話題でいっぱいです。連日不安なニュースばかりが報道され 気持ちも沈みがちですね。テレワークできる仕事の所は良いですが、物づくりの会社はそう上手くいきません。時間差で通勤したり 人数を調整したりと あれこれ策をめぐらすのみ、一日も早い収束を願います。

今回は**中綴じ**の話し再びの①

ウイルスのおかげで時間ができたなら、一度この製本のススメを#1から読んでみるというのはどうでしょう 意外と参考になる事柄が満載です。さて数回に涉って「そもそも」からおさらいしましょう。今回は**中綴じ**です。

中綴じは背を針金（ステッチ止め）で綴じる方法で、製本作業の中でも簡易的な製本とされています。見開きが良く主にページ数の少ない冊子に対応でき比較的コストも安価で人気があります。簡易的と言っても最近ではカラー印刷が主流となり、見開きの線や絵合わせも多く 加工側から見れば簡易とは言えない状況になりつつあります。

利点としては やはり**見開きの良さ**です。喉元まで開くのでカタログやパンフレット等には適しています。また無線綴じよりも加工工程数が少ない場合が多く 結果的に短納期・安価にも繋がります。

弱点としては 背をステッチャーで綴じる為 **針金の長さまでしか綴じられないため、ページ数の多いものは加工できません**。紙厚にもよりますが60頁程度と言ったところでしょうか。それ以上は加工する製本会社へお問い合わせください。もう一つ見栄えの問題があります。**中綴じは冊子というよりも雑誌という位置づけ**です。小説や記念誌等のような内容には向きません。たとえ印刷がカラーで美しくても、パンフレット止まりで一時的な物という感覚ですね。

最近ではカタログも豪華になりました。エンボス加工や厚盛り・箔押しと見栄えも十分です。デザインを工夫して販促に役立ててください。

次回は中綴じの話再びの②です。中綴じの魅力から重大な弱点のお話です。



Tea break

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出され、不要不急の外出自粛の要請が出て大きな打撃が出ていますが、全面的に休業という対処は取らずに作業内容を鑑みて、作業ごとに担当者の自宅待機をさせて頂いております。また就業時間の繰り上げも随時行っておりますので、急な発注に対応できかねる場合がございます事をご了承下さい。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本